

令和2年度第2回川崎市産業振興協議会中小企業活性化専門部会 会 議 録

1 開催日時

令和2年11月26日（木）10時00分～11時40分

2 開催場所

川崎市産業振興会館 10階 第4会議室

3 出席者

(1) 委員（8名）

遠山部会長（専修大学・経済学部教授）、増山委員（川崎商工会議所・副会頭）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会・常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会・青年部相談役）、星野（妃）委員（神奈川県中小企業家同友会・政策委員長）、佐藤委員（川崎建設業協会・副会長）、小出委員（川崎市食品衛生協会・副会長）、星野（佳）委員（川崎市青年工業経営研究会・会長）

(2) 事務局

経済労働局産業政策部長、企画課長、担当係長、担当職員

4 議題（公開）

- (1) 令和元年度中小企業活性化施策報告書について
- (2) 令和2年度中小企業活性化施策の検証の進め方について
- (3) 新型コロナウイルス感染症に係る本市の緊急経済対策について

5 傍聴者

なし

6 会議の内容

産業政策部長

(令和2年度第2回川崎市産業振興協議会中小企業活性化専門部会開会を宣言)

(会議公開や傍聴人の有無(今回は無し)、会議成立を確認)

(委員任期の終了に伴い、前期に引き続き遠山委員を部会長とすること、8名体制で部会を開催することについて意見の有無を確認(異議は無し))

(議事進行を遠山部会長に依頼)

遠山部会長

それでは、議題1の令和元年度中小企業活性化施策報告書について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

(資料1、資料2に基づき説明)

遠山部会長

只今の説明に対し、委員の皆様から御質問や御意見をいただきたい。

増山委員

「受注機会の増大等」について、今年度上半期の公共工事執行率80%を目指すとのことであるが達成されているのか。

事務局

この数字は今年度の執行分でありこれから取りまとめ等が行われるが、8月の時点では担当部局から例年と同様の執行率であると聞いている。

小出委員

昨年度の施策と直接関係している話ではないが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、飲食業は大変苦戦している。現状でできることは手洗い・うがいの徹底等であり、食品衛生協会ではこれまでもこれらの重要性を訴えていたが、引続き協会の役目として手洗い・うがいの徹底を呼び掛けていきたいと考えている。

テレワークやオンライン化については、飲食業では現場で物事を進めていかなければいけないので、活用するには難しい状況にある。

飲食業は厳しい状況であるが、川崎じもと応援券は多くの方に利用していただいている。このような状況の中でも、感染対策を徹底した上で、前向きに動いていかななくては後々苦しくなってくる。川崎市観光協会イベント等を開催し始めており、連絡を取り合いながら、感染対策と経済を回す活動を進めていきたい。

佐藤委員

建設業では現場で人や物が動かざるを得ないため、オンラインやテレワークの活用まで手が回っておらず、社会的なオンライン化の流れとは異なった状況にある。

建設業の業務は基本的に屋外での作業となることから、感染リスクは低く、業界内で感染したという話はほとんど聞かない。しかし会合等は自粛の傾向にあり、中々会合が開催できていない状況である。

星野(佳)委員

製造業では、他業界と比較して新型コロナウイルス感染症による致命的なダメージを受けてはいないが、今後も苦しい状況は続くとみられる。製造業と比較し飲食業等は大きく影響を受けていることから、我々が飲食店を利用することなどを通じて、飲食業の支援に繋がればと考

えている。

苦しい経済状況の中でも、最近は自社製品を開発する企業も増えてきている。「川崎ものづくりブランド」を通じた支援は、製品に箔がつくことにも繋がるので有効に感じる。

テレワークの導入状況について、製造業ではコスト面等が課題になっている。取引先がテレワーク化されたことにより、その分自社で多めにフォローしているという状況も発生している。また、テレワークが多く導入されている他業種と比較し、通勤に伴う感染リスクが高いと感じている。

新型コロナウイルス感染症への対応も含め、業界を超えて話をする機会は少ないことから、部会の場で積極的に意見交換をしていきたいと考えている。

遠山部会長

それでは、続いて議題2の令和2年度中小企業活性化施策の検証の進め方について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

(資料3に基づき説明)

遠山部会長

産業振興協議会へ第3期実行プログラムの報告を行うという話があったが、部会にも報告いただけるという理解で良いのか。

事務局

部会にもきちんと報告する予定である。

遠山部会長

部会でもプログラムに対して意見等を出せると良いと考えている。

只今の事務局からの説明に対し、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

星野(妃)委員

医工連携等推進事業を検証対象から外すとのことであるが、これまでの成果を教えてもらいたい。自身も本事業の検証担当者になったことがあるが、医と工で繋がりにくかった要因があったのではないかと考える。そんな中でも参画したいという企業は存在したので、継続する意義もあったのではないかと思う。

事務局

医工連携等推進事業の取組は全く無くなるということではなく、他の取組と併せて新しい事業を行う予定であり、包括的に支援を行っていく予定である。

成果については、報告書ではイベントの開催回数や参加者数が指標となっており達成できているが、ビジネスとして成立するところまでは難しい面があり、要因として医と工の専門用語がかみ合いづらい等があったと思われる。両業界の意識は高まってきている傾向にあるため、引続き新型コロナウイルス感染症の対応も絡めて支援を行っていく予定である。

星野(妃)委員

オンライン化について、中小企業家同友会では先日ハイブリッド形式でイベントを開催し、285名が参加した。リアルでは産業振興会館を会場として使用したが、ホールでは1席ずつ空けて着席すると共に、会館の各部屋に分散して密を避けて分科会を開催するなどをしたことにより、素晴らしいイベントとなり開催して良かったと思っている。新型コロナウイルス感染症の収束まで時間がかかることが予想されるが、感染対策をしっかりと行った上で、やるべき時に前向きに物事を進めていくことは大事であると考えており、市としても開催できるものについてはきちんと準備をした上で実施していただきたい。

出口委員

商店街では空き店舗が増えてきている。幅広い視点を持ち、課題に対するアイデアを出していく仕組みが必要であると考えている。

川崎市では、東京や横浜、鎌倉等と比較し海外からの来訪者が少ないという面があったが、その分、新型コロナウイルス感染症の影響が比較的少なかったと思う。今後はどのようにして内需を取り込むかということが重要であり、川崎市観光協会も頑張っているの、協会の取組みも積極的に取り上げていてもらいたい。

商店街のイベントに目を向けると、屋外のイベントは実施している状況である。昨年度と比較し各イベントの来場者数が増えている状況であり、やれる範囲で経済を回していくことが重要である。商店街関係者の中でアイデアを出している状況なので、是非協力してもらえるとありがたい。

大西委員

神奈川県情報サービス産業協会のイベントはハイブリットの形で開催している。市がオンラインでイベントを開催している話があったが、どのような形で実施しているのか見てみたいため、イベント情報をもらえれば参加したい。

増山委員

施策検証の担当割りの話があったが、私自身が特に関心の高い分野は SDGs である。経団連も SDGs、DX を重要視している。中小企業もこれらに取り組みれば話題になりやすく、例えば商店街として SDGs や DX に取り組んでいけば注目を浴びるのではないかと。

海外展開支援の面では、インドネシアが人口も多く元気な国であると聞いているので、川崎市として特定の国に絞って支援を行うことを検討してもよいのではないかと。

遠山部会長

医工連携や SDGs の話が出たが、これらは各施策の横断的な取組になるのではないかと。条例ごとに施策検証を行う都合上、案のような検証対象の分け方となっているが、各委員は他の委員の話聞くなど、幅広い視点を意識して検証作業を進めていくと良いのではないかと。市担当者にもその点を意識して施策内容を説明してもらいたい。

佐藤委員

施策検証の際には、他の委員の意見も聞きながら発言していきたい。

小出委員

人材確保について、新型コロナウイルス感染症の拡大前までは中々人材が集まらなかったが、感染拡大後は採用希望者が増えてきている。人材確保に併せ、今は人材をきちんと育成するチャンスであると考えており、アンテナを張って情報を収集していきたい。

遠山部会長

従業員向けの人材育成に取り組む企業は多いが、経営者向けの育成も必要ではないかと。

また、近年は、社内における若手との関わり方が変わってきていると思う。これまでは上から押し付ける形で物事が進んでいたかもしれないが、若手の方が IT に詳しく、若手の意見を積極的に取り入れていくことも必要になってきているのかもしれない。

星野（佳）委員

大学生と会う機会が多いが、大学生は日常的にオンラインを活用していることから、むしろ新たな刺激としてリアルな場で会うことを望んでいるとも感じている。若手との関わりでは、きちんと意見を聞いた上で、臨機応変にハイブリッドで対応していくことが必要であると感じている。

遠山部会長

医工連携についてはキングスカイフロントを中心に事業を進めているが、KBIC等の内陸部での支援を進めていくことも良いのではないかと。

また、市内中小企業のIT化支援をもっと進めていくべきであると感じている。

議題2の検証の進め方については反対意見が無いため、案のとおり進めていきたいと思う。

遠山部会長

最後に議題3の新型コロナウイルス感染症に係る本市の緊急経済対策について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

(資料4に基づき説明)

遠山部会長

只今の事務局からの説明に対し、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

出口委員

商店街では感染対策としてポリ塩化ビニルやアクリルパネルを設置している事業者が多いが、消防法への対応から今後店づくりをどのように変えていくか考えていく必要がある。

これまでは給付金等の一時的な支援策が多かったが、今後は持続可能な支援策を考えていかなければいけないのではないかと。

星野(佳)委員

これまでは急激な社会の変化に対する止血的な対応であったが、今後は経済を前向きに進めていく上で新たな要望も出てくると予想される。

持続可能な施策を検討していくことが必要であり、市にはコストがかからない形で自治体としてどのような施策を進めていくべきか考えてもらいたい。施策を検討する際には、業界にも意見を聞いていただき施策立案の参考にしてもらいたい。

事務局

今後の施策については、予算要求も併せて検討作業を進めているところである。部会や協議会などの検証の場でも意見をいただきたいと考えている。

星野(妃)委員

第3期実行プログラムにも我々の思いを入れていただき、中小・小規模事業者に寄り添った内容にしてもらいたい。

遠山部会長

本日の議題は以上。

引続き、皆様の意見も踏まえ、今年度の施策検証を進めていきたい。

(議事終了。議事進行を事務局に戻す)

産業政策部長

長時間のご参加に感謝申し上げます。

報告書のとりまとめに向け、委員の皆様には多大なご負担等をおかけするが、何卒ご協力をお願いしたい。

以上